

# 乳児期動脈管開存の心内心音図

## 特にその臨床的意義について

九州大学小児科 加 藤 裕 久

### 論文掲載紙

Kato, H., Oda, T., Hirose, M., Yoshizawa, Y., Uryu, K., Oozono, I., Honda, S., Fukuda, H. & Nagayama, Y. : Intracardiac and external phonocardiographic study in infant with patent ductus arteiosus and pulmonary hypertension. Jap. Circulat. J. 32 : 1571—1577, 1968 (Nov.) .

### 第 8 席 討 論

田村 (天理病院小児科) 演題の中には触れられていませんが、手術手技の撰択にも関係して、鑑別すべき重要な疾患として大動脈中隔欠損があり、最近3例経験しています。そのような例の経験について。

演者 心内心音の経験はありません。

田村 私は現在まで1098例の心カテをやっていますが、ボタロ氏管開存の場合はカテーテルを通すことが直接的証明であります。大動脈中隔欠損の場合は、シャント量が多い割合にカテーテルが通らないということから、動脈管開存らしくないという疑問が生じ、出来れば欠損孔を通して上行大動脈を造影するとよいと思います。私の2例の造影経験では、最も大切なことは肺高血圧症があって連続性雑音がきかれない場合、動脈管開存を疑ってカテーテルを通すように努めるということだと思います。

演者 私の例は全例カテが動脈管を通過しております。ただし動脈管は通ってもそれ丈ではないこ

とがあるので、基本的にはやはり左心カテーテル、左心造影をすべきだと思います。ただ右心カテの段階でも心内心音をとりますと、非常に簡単に他の疾患を除外することが出来るという事を示した訳です。大動脈中隔欠損は検討していませんのでその点は何とも申し上げられません。

古田 (三井記念病院胸部外科) 私は東大で4例の大動脈中隔欠損を経験しましたが、連続性雑音を示したのは1例で、他は肺高血圧症を伴う心室中隔欠損に類似していました。大動脈中隔欠損は動脈管開存に形態学的には非常に似ていますが欠損口が大である可能性があって、連続性雑音を示さないものが多いように思います。教科書的には連続性雑音を示す疾患の項で動脈管開存の次に並べられますが、肺高血圧症を伴う収縮期雑音のみを呈する疾患群に入れておくのが常識的で、実地臨床上也間違いが少いと思っております。

田村 私の3例も、いずれも連続性雑音を示しませんでした。